



故 栢原英郎氏の 逝去を悼む

日本港湾協会理事長、会長を歴任、その後も本協会名誉会長、名誉会員として長きにわたり本協会の運営及び発展に尽力された栢原英郎氏が令和7年5月6日逝去されました。満85歳でした。謹んで哀悼の意を捧げます。

故栢原英郎さんは、昭和15年2月13日生まれで、昭和39年3月北海道大学土木工学科を卒業後、運輸省に奉職され平成10年4月に退官されるまで、港湾局長、初代技術総括審議官などの要職を歴任されました。

栢原さんは生涯港湾屋であることに人一倍誇りと使命感を持って仕事に取り組みられました。専門分野毎のプロフェッショナルがベストを尽くしあってこそ国及び地域の発展が実現出来るとの信念をお持ちでした。常に自らの使命を問い最善の努力を続ける姿勢は、十代前半に自ら信仰告白し浸礼を受けて以降のパプテストとしての生き方と重なります。

公務員歴のうち、経済企画庁、国土庁での3度の勤務時代には、三全総、四全総策定実務を担当されましたが、その際に上司から受けた薫陶、さらには培った幅広い人脈との縁が視野を広げ、以後の仕事に大いに影響したと自著において述懐しておられます。

本分として大事にしていた港湾屋としての業務では、日本海中部地震後に災害対策室長として、震災発生時にも港湾機能が全面ストップすることがないように国による耐震強化岸壁整備制度の実現に尽力しました。後に港湾局長在任時に阪神淡路大震災により神戸港のコンテナ埠頭などが壊滅的被害を受けた際に、耐震強化岸壁は無事でその後の2年弱という驚異的短期間での神戸港の復旧復興に貢献し、地元にはもちろんのこと政官界、土木学会関係者からも高く評価されました。

港湾局長在任時には、財政制度審議会で港湾整備事業がCランク評価を受けたことへの対応に尽力されました。港湾投資の選択と集中、他分野に先駆けたインフラ・コスト縮減などの改革を進めながら、国および地方経済に及ぼす港湾の重要性と国の整備責任などについて、港湾管理者の長である知事、市長の皆さんと手を携えて各方面に対して粘り強く主張を重ねられました。国際関係では日韓港湾局長会議を創設、その後の中国を交えた北東アジア港湾局長会議並びに同港湾協会会長会議の併設へと発展する礎を築られました。

初代技術総括審議官を経て退官後は、本協会の理事長、会長を歴任、港湾のスポークスマンとして広汎な交友関係を活かして活動を継続されるとともに、全国重要港湾の長期構想、港湾計画づくりに東奔西走の日々を過ごされました。港湾保安対策関係業務などの拡大を契機として、機構改革、港湾政策研究所の設置も実現されました。

土木学会の各種委員会活動には公務員時代から尽力、平成20年には第96代土木学会長に就任。社会資本整備全般の振興発展にも貢献されました。

亡くなる直前の意識が薄れる中でも「ここはこう変えなくては」と現場におられるようなうわごとを繰り返しておられた由、栢原さんの使命感の強さに深く敬意を表します。



天に召された栢原さんの魂が主とともに安らかにすごされますように。

笈隆夫（日本港湾協会・元専務理事）